

アメリカ・ライト取扱説明書

はじめに

この度は「ゆっくりレンタカー」をご利用いただきありがとうございます。
本書はキャンピングカーアメリカ・ライトの取扱方法を説明したものです。

キャンピングカーの取扱いは乗用車と異なり、いろいろな機能や機器など、
居住に関わる部分を多く取付けておりますので、ご使用前に必ずお読み
下さい。

本書は次のお客様の為にも大切に保管下さい。

車両の仕様などの変更により、取扱商品、設備に関して内容が一致しない
場合もございます。

あらかじめご了承下さい。



もくじ

■ 安全にご利用になる為に

P.04~

日常点検
出発前点検
エンジン始動時
安全の確認

■ 鍵・工具について

P.07~

鍵
工具・ジャッキ

■ 外装設備について

P.08~

給油方法
外部電源コンセント
タイヤ
スペアタイヤ

■ 内装について

P.10~

ダイネット部名称
リヤキャビネット部名称
冷蔵庫
シンク
給水・排水タンク
~~レンジ~~
~~カセットコンロ~~
窓
カーテン
モードチェンジ
テーブル
セカンドシート
フロアベッド展開方法
リヤベッド設置方法

■ 電装について

P.18~

各種スイッチ、電源
照明
サブバッテリー
バッテリーチャージャー
バッテリー残量計
~~インバーター~~
ベンチレーター

■ 暖房について

P.21

~~FFヒーター~~

■ お手入れについて

P.22

洗車
コーキング

■ トラブルシューティング

P.23

走行時のベース車側のトラブル
事故を起こしてしまったら
破損が軽微の場合
破損が大き目の場合
照明などの電源が全て消えた
冷蔵庫が動かない
MAX ファンが動かない
サブバッテリーが上がった

■ 保障について

P.24

■ 会社情報

P.25

■ 安全にご利用になる前に

◆ 日常点検

日常点検は道路運送事業法により、運転者に義務付けられています。
付属の車両取扱説明書を見て点検を行い、安全に運行しましょう。

○ タイヤの確認

■ タイヤについて

タイヤはゴム製品なので、走行中の振動や路面から受ける熱などによって劣化します。
劣化が進むとバースト（破裂）を起こす可能性が出てきますが、特に夏は日照りによってアスファルトの温度が上がるため、タイヤの温度も上昇し、バーストの発生率が高くなります。
このようなバーストを防ぐためには、ご自分の車のタイヤの状態をこまめにチェックする習慣を身につけるようにしてください。

■ スリップサインに注意

タイヤの使用限度は、一般的に残り溝（1.6mm 以上）やキズ・亀裂の有無から判断することができます。
サイドウォールなどにヒビが入っているのを見つけたら「危険信号」だと意識してください。
また「スリップサイン」が出ているかどうかを必ずチェックしてください。
これは、タイヤの限界が来たことを伝えるサインのことで、タイヤの溝底に設けられた 1.6mm のゴムの盛り上がり部分のことを指します。
スリップサインは、残り溝 1.6mm という法令（道路運送車輛の保安基準第9条）で定められた最低ラインを示す表示ですから、これが見えてきたら、そのタイヤの使用は控えてください。
できれば、これが見える前に新品タイヤと交換しましょう。
また、小形トラック用タイヤは、高速道路を走行する場合は 2.4mm 以上の残り溝が必要となります。
このようなタイヤを履いている車両は、その使用制限を守ってください。

■ 常に適正な空気圧を保つ

空気圧が適正でないと、溝やキズ・亀裂の有無とは関係なくバーストを起こす可能性が高まります。
ゴムは空気を通しますので、タイヤの空気圧は1ヶ月の間に約3～5%低下します。
したがって、空気圧の点検は、最低1ヶ月に1度は行なってください。
車両の指定空気圧は、車両のドア付近に表示されています。不明の場合には、ビルダー（架装メーカー）または販売店にご相談ください。
空気圧を調整するときは、指定空気圧を下回ることのないように、10%を上限として、少し高めに調整してください。
タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に、エアゲージにより点検し、ビルダーの指定空気圧に調整してください。

■ タイヤの変形

長期間同じ場所で保管しておくともタイヤが重みで変形し形にクセが付く事があります。
そのまま高速道路など走られると最悪バーストする危険性が高まりますので、乗らなくても定期的に動かし接地部分を変えるようにしてください。

■ 荷物の積みすぎに注意

タイヤが劣化する度合いは、車を使われる方の運転の仕方や荷物の積み方で異なります。
まずは空気圧を適正に保ち、過積載を行わないなど、日頃の心がけが必要です。
走行中に異常な振動を感じたら直ちに停車し、タイヤをチェックしてください。

■日本タイヤ協会 (JATMA)

少しでも違和感を感じたり劣化の症状が出ていたら適切な対策を施してください。

日本タイヤ協会では、一般乗用車のタイヤの日常チェックポイントとして、ホームページを通じて、次のような呼びかけを行っています。キャンピングカーのタイヤチェックにも必要な指摘がありますので、参考にしてください。

- ・日本タイヤ協会の日常チェックポイント <http://www.jatma.or.jp/tenkencheck/>
- ・タイヤの製造年月日の確認方法 <http://www.jatma.or.jp/tekisei/pdf/tyre.pdf>

○ オイル・クーラント・ウォッシャー液の確認

オイルの汚れ、クーラントやウォッシャー液の残量を確認します。

◆ 出発前点検

○ 車両に装着してある設備の点検 (走行時の脱落を防止する)

サイクルキャリア、ラダー、その他設備等が何らかの理由などで緩んだり、外れたりしていないかを確認します。

○ 積載物の確認及び重量バランスの確認 (走行安定性を確保する)

トランク等に積んだ積載物の重量が偏ると車両姿勢が不安定になり、安全運転の妨げになります。動かないようバランス良く積みましょう。

○ エントランスドア、バゲッジドア、スカートの施錠確認 (うっかり事故の防止)

各場所にはキーシリンダーが着いています。止め忘れると走行時に開いたり、暴れたりして事故の原因になります。

○ サブバッテリーの電圧の確認 (電源周りの確認)

サブバッテリーの電圧がエンジン始動前で11V以下になっている場合はエンジンをかけて事前に充電をしてから使用してください。特に10V以下の場合は後述している方法にて充電を行いましょう。

○ 荷物の積み残しの確認 (出発後のトラブルの防止)

車両の周りに積み残しの荷物があると、事故やトラブルの原因になります。また、外部コンセントケーブルなどがつながっていないか確認しましょう。

◆ エンジン始動時

○ メーター上の警告等の確認

車体の不具合がないかどうか確認します。

○ エンジンの異音の確認

エンジンの不具合がないかどうかを確認します。

○ サブバッテリーの電圧の確認

エンジン始動時に電圧が上がっているかどうかを確認します。

○ 燃料の残量確認

十分な燃料が入っているかどうかを確認します。

◆安全の確認

○車体のサイズと見切りについて

走行時、車両の上部、左右、後部をよく見ながら運転をしましょう。

特に高さ制限のある場所、見通しのわるい交差点、細い道路などでの軒先や標識の出っ張り、立ち木の枝などで車両を損傷する場合があります。

良かれと思って道を譲ったときに、路肩の枝で車を壊すこともあります。

○車体の下へのもぐりこみの注意

小さいお子様のいるご家庭では、車両の床下へのもぐりこみに注意しましょう。

何らかの理由で車両の下へもぐりこむことで重大な事故になる可能性があります。

○砂地やぬかるみでの走行について

車両重量が重いので深みにはまる可能性があります。

車重で脱出が難しくなる場合がありますので、そのような場所ではできるだけ避けるようにしてください。

○積雪路や凍結路での走行について

ゆとりある運転を心がけて、急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは行わないようにしましょう。

特に凍結路の急な下りなどでは、タイヤがスリップして自重ですべり落下する可能性があります。

事前に道を確認して十分スピードを落として走行してください。

ABS、ASRなどを過信しないようご注意ください。

また、スタッドレスタイヤだけでなくチェーンも携帯して、万が一の場合に備えましょう。

エンジンブレーキ、排気ブレーキ、フットブレーキを状況に応じて使い分けて安全に運転をしましょう。

○強風時の走行について

キャンピングカーは車高が高いため、横風などにあおられる場合があります。

道路などに設置している吹流しや煙突の煙、立ち木の揺れ方など、自然の動きをよく見ながら安全運転を心がけましょう。

トンネルの出口や暴風壁の切れ目などで風によりハンドルを取られる場合がありますので、十分注意して走行してください。

もし車体がバランスを崩したときは、フットブレーキをかけずに、エンジンブレーキや惰性で徐々に減速していきましょう。

無理に強くブレーキをかけると横転する場合があります。

○停車、駐車時の確認ごと

車両を停車、駐車する場合は必ずギアをP（パーキング）にしてパーキングブレーキをしっかりかけてください。

また、斜面上に停車、駐車する場合は車輪に輪留めをかけるようにしましょう。

パーキングブレーキが十分にかかっていると車両が動いて大きな事故になる場合があります。

○お車から離れる時

停車、駐車などで車から離れる時は必ず施錠をしましょう。

キャンピングカーは生活道具や高価な部品がたくさんついており、車体だけではなく、物品類の盗難の可能性もあります。

また、普通車と異なり、車体が大きく狭い場所では威圧感があるため、周りの人に迷惑がかからない駐車を心がけるようにしましょう。

■ 鍵・工具について

◆ 各種キーの説明

アメリカではキーレスエントリーシステムの鍵が付属します。



◆ 工具・ジャッキ

タイヤ交換時等に使う工具が備え付けられています。



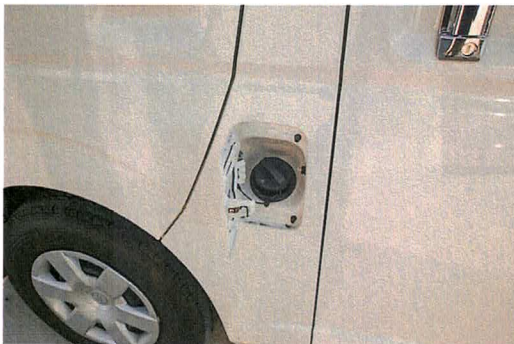
ジャッキ

工具ケース

ジャッキ、工具類の使い方についてはベース車両の取扱説明書をご確認下さい。

■ 外装について

◆ 給油方法



給油方法についてはベース車両の取扱い説明書をご確認下さい。

◆ 外部電源コンセント

このキャンピングカーは 100V 外部電源を接続する事で室内に設置してある 100V コンセントが使用可能となります。



外部電源コンセント



外部電源ケーブル



ケーブル先端に矢印が書かれている方を上にして接続して下さい。
外す時は左に回して引き抜いて下さい。

注意!

キャンプ等の駐車中に電気を使う場合は必ず外部電源ケーブルを接続して下さい。

外部電源コードを使用せず、走行中に 100V 製品を使用する場合はインバーター（オプション）が必要となります。

◆ タイヤ



フロントタイヤ
195/80R15 107/105L LT



リアタイヤ
195/80R15 107/105L LT

◆ スペアタイヤ

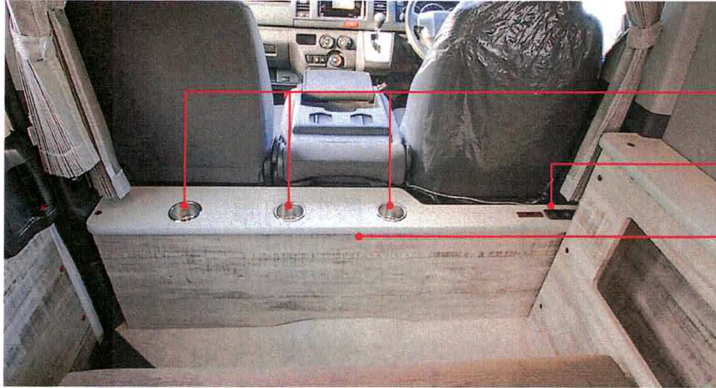
車両後方下部にスペアタイヤが搭載されています。



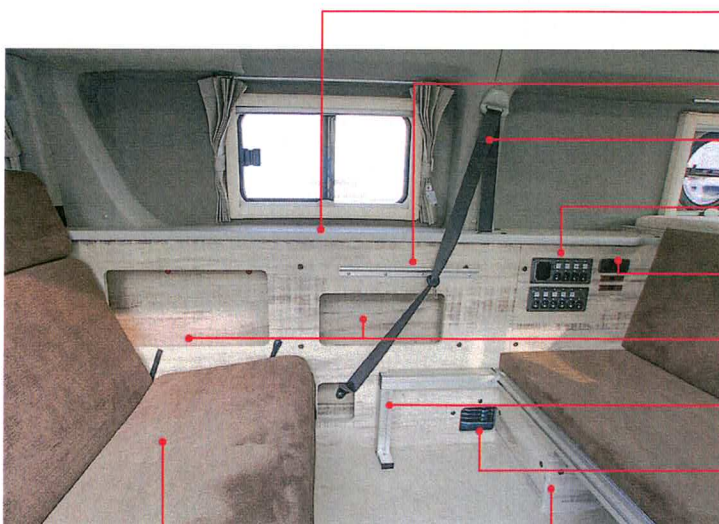
スペアタイヤを降ろす場合は、この穴に工具を差し込んで作業します。
交換方法は車両マニュアルをご確認ください。

■ 内装について

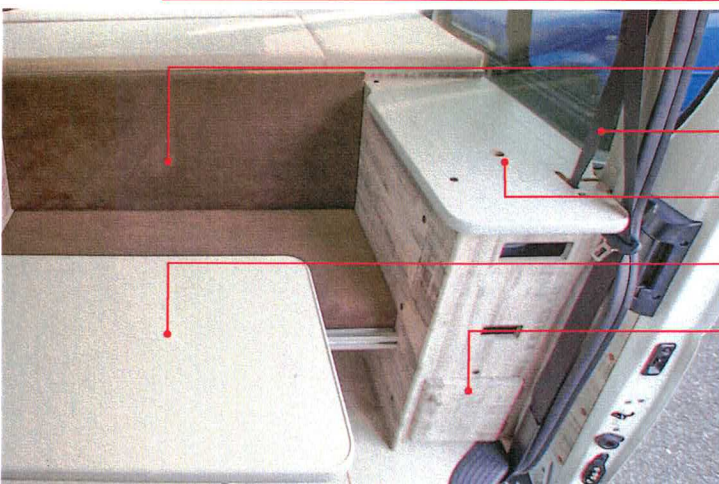
◆ ダイネット部名称



- カップホルダー
- 各種電源
- フロントカウンター

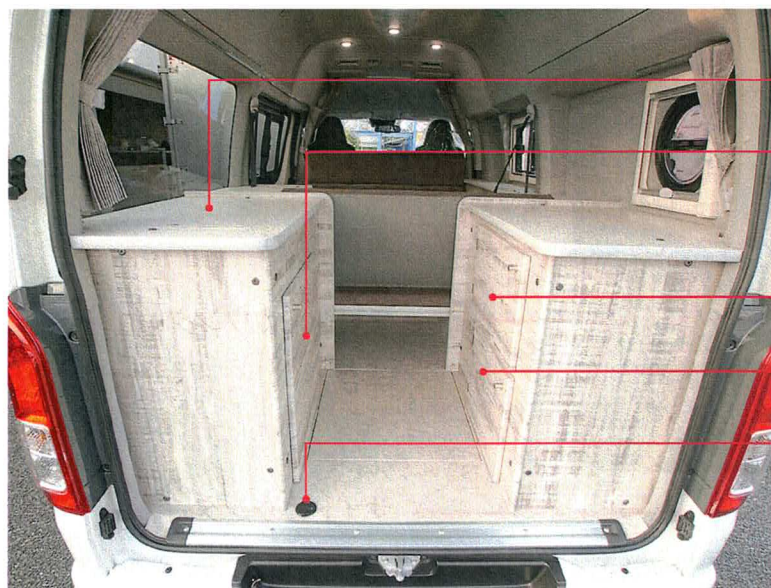


- サイドカウンター
- テーブルレール
- シートベルト
- スイッチパネル
- 各種電源
- 収納スペース
- マット受けアルミフレーム
- エアコン吹き出し口
- 電装系ボックス



- セカンドシート
- サードシート
- シートベルト
- 冷蔵庫
- テーブル
- 収納庫

◆ リヤキャビネット部名称



シンク

水タンク収納庫

上段収納庫

下段収納庫

スペアタイヤ用工具穴

◆ 冷蔵庫



ENGEL 製 14L 冷蔵庫 (12V)

◆ シンク



使用する場合は集中スイッチの「水道 (ポンプ)」を ON にして下さい。



シャワーヘッドを引き出して使う事が可能です。

◆ 給水・排水タンク/ポンプ



清水 10L、排水 10L のタンクを装備。
電動ポンプ、排水ホースをそれぞれのタンクに入れてご使用下さい。

注意!

給水タンクが空の状態ではポンプを作動させ続けしないで下さい。
故障の原因となります。

走行時は必ずベルトでタンクを固定して下さい。

冬季はタンクを空にし、ポンプを数秒空回してホース内から水を排出して下さい。

凍結による故障の原因となります。

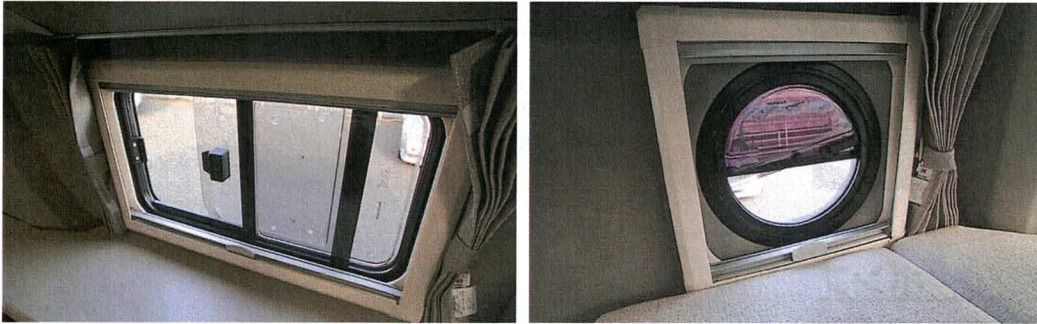
◆ 電気ケトル・ドライヤー



- ・外部電源接続時は室内のコンセントでご利用ください。
- ・ポータブル電源のコンセントもご利用出来ます。
- ・ケトルは満タンで約10分で沸騰します。

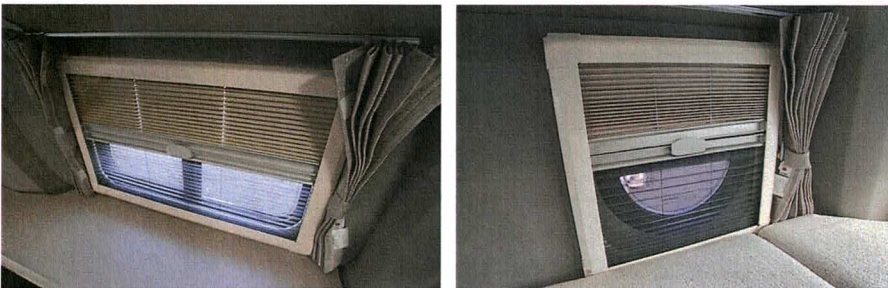
◆窓

断熱性に優れたスライド式アクリル二重窓。



○網戸、シェードについて

窓枠の下には網戸、上にはシェードが格納されています。



◆カーテン



◆ モードチェンジ



◀ ドライブモード

走行時はセカンドシートに人が座る場合は前向きにセットします。
サードシートは走行時は着座できません。

※シートを最も奥迄下げて
シートベルトを出してください。



◀ リビングモード

セカンドシートを後ろ向きにセットします。
テーブルをセットすると食事やくつろげる空間になります。



◀ フラットモード

フロアベッド部：長さ 1900mm × 幅 1550mm
大人2人就寝が可能です。

警告 !!

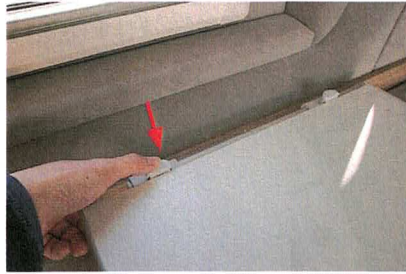
シートをフラットにした状態でのご乗車は大変危険
ですのでお止め下さい。

◆ テーブル

○ テーブルの取り外し方



①



②レールとフックで固定されています。
上からボタンを押すと解除。
下側からボタンを押し上げるとロック
状態になります。



③テーブルを上を持ち上げるとレールから
外れます。



④脚の付け根のボタンを押すと



⑤脚を折りたためます。



※テーブルの高さが水平でない場合は
足元のつまみを緩めて調整して下さい。

注意！

テーブルの上には危険ですので絶対に乗らないで下さい。

◆ セカンドシート (REVO シート)

○ 機構の説明



シートの横から出ている紐を引くとシートの
角度調整ができます。



足元にあるレバーをねじるとシートの前後
の調整ができます。

◆フロアベッド展開方法

○フロアベッド展開手順（リビングモード→フラットモード）



①



②テーブルを外す



③サードシート端のアルミフレーム



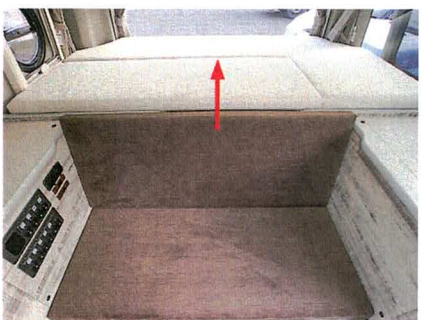
④90°振ると取れる



⑤それを右端に持ってきて差込む



⑥下に捻ってマット受けを作る



⑦サードシートの背もたれを引き抜く



⑧手前の受けに載せる



⑨セカンドシートを右にスライドさせ、ハイバックは空いているスペースに置く



⑩座面を平行になるよう上げる



⑪背もたれを倒しフラットにして完成

◆ リヤベッド設置方法

○ TYPE1



リヤにベッドを設置する時はマットを図のように並べて下さい。



オプションの拡張マットを追加するとダイネット側にもベッドスペースを作れます。

○ TYPE2

←ゆっくりレンタカーはこちらのタイプです。



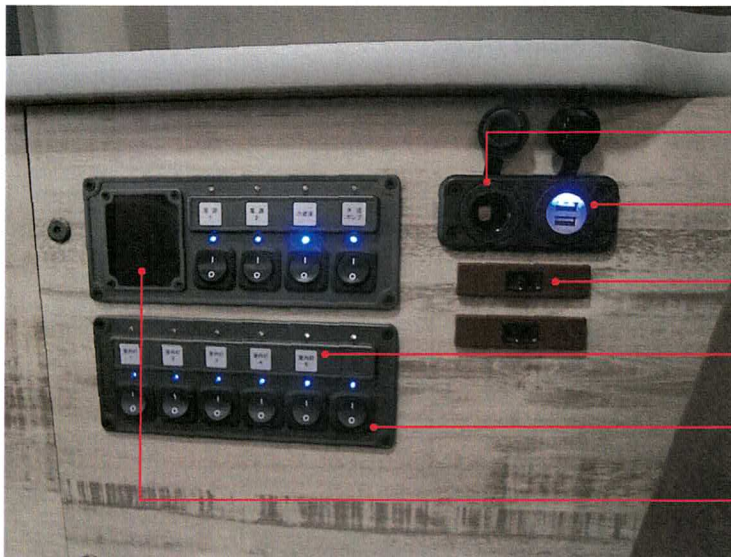
リアをベッドにする時はマットを図のように並べて下さい。

注意！

一点に 80 kg以上の負荷がかかるような載せ方はやらないで下さい。
マットが破損する危険性があります。

■ 電装について

◆ 各種スイッチ、電源



DC12V アクセサリーソケット

USB 端子

100V コンセント

スイッチ説明

電源スイッチ

インバータースイッチ (オプション)

注意!

電装品を使用しない時はスイッチを OFF にして下さい。
サブバッテリーが上がる原因になります。

DC12V 専用の機器が使用できます。
合わせて 10A 以内でお使い下さい。

インバーターが付いている場合
集中スイッチ「電源1」を ON にして下さい。

○ ヒューズ

シールが貼られている部分のカバーを外すとスイッチごとのヒューズが確認できます。



ヒューズ切れた場合、スイッチを ON にすると、その部分の LED が赤く光ります。
その場合はヒューズを交換して下さい。

各ヒューズは 7.5A です。

※電装品本体にもヒューズが付いている場合もあります。

◆ 照明



電源集中スイッチに書かれている照明を ON にして下さい。
照明本体にもスイッチが付いている場合があります。
全て LED 照明となっております。

◆サブバッテリー



12V 105A バッテリーを一基搭載しています。
オプションで増設する事は可能です。
メインバッテリーと同じく、サブバッテリーも充電切れや
バッテリー上がりを起こす可能性がありますので外部電
源に接続のうえご利用ください。

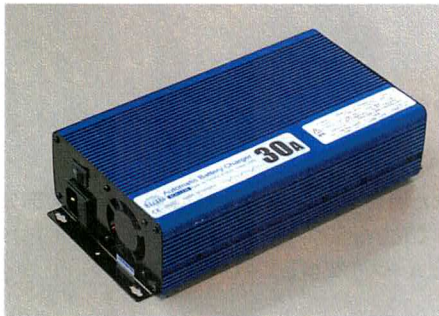
《サブバッテリー 使用可能時間 目安》

| 家電製品 | 消費電力 (W) | 計算式 | 使用可能時間 |
|---------|----------|---|---------|
| ノートパソコン | 100W | $12V \times 105A \times 80\% \div 100W$ | 10.1 時間 |
| 液晶テレビ | 150W | $12V \times 105A \times 80\% \div 150W$ | 6.7 時間 |
| 電子レンジ | 500W | $12V \times 105A \times 80\% \div 500W$ | 2.0 時間 |
| 電気カーペット | 800W | $12V \times 105A \times 80\% \div 800W$ | 1.2 時間 |
| 電気ポット | 950W | $12V \times 105A \times 80\% \div 950W$ | 1.1 時間 |

○サブバッテリー充電方法

サブバッテリーの充電は走行中に行われます。
外部電源との接続によって行いたい場合はバッテリーチャージャーが必要となります。
またオプションでソーラーパネルを設置している場合はそこからも充電されます。

◆バッテリーチャージャー (オプション)



バッテリーチャージャーとは外部 100V をケーブルでつ
ないだ際に、100V から 12V に変換しサブバッテリー
に充電する機器です。

室内製品のほとんどが 12V です。100V 接続時
には室内製品をサブバッテリーの消耗を気にせず使用
できます。

◆バッテリー残量計 (オプション)

外部充電ケーブルを接続していない状態で車内の電化製品をご利用の際は、必ず事前にバッテリー
残量計を確認しましょう。バッテリー残量計を確認することで、室内の電気を使うためのサブバッテリー
が突然使えなくなることを避けることができます。



《バッテリー残量計 チェック基準》

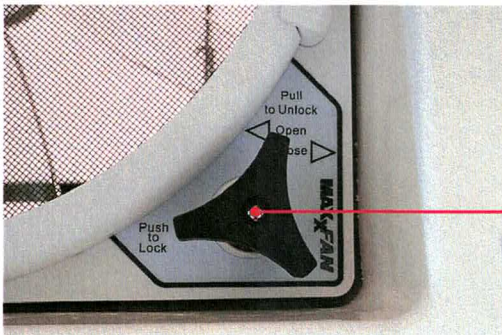
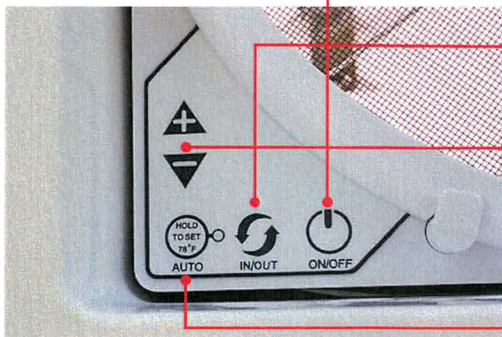
| | |
|---------------|------------------|
| 12.6V ~ 12.8V | 充電は満タンです。 |
| 11.5V ~ 12.5V | 安心してご利用いただけます。 |
| 10.5V ~ 11.5V | ご使用を控えて充電しましょう。 |
| ~ 10.5V | 即時使用をやめて充電しましょう。 |

注意!

サブバッテリーが上がると充電できなくなる可能性があります

◆ ベンチレーター [MAXX ファン] (オプション)

使用する前に集中スイッチの「ルーフベント」を ON にしてご使用下さい。



「ON/OFF」ボタン：ファンを作動・停止させます。

「IN/OUT」ボタン：
IN (吸気) / OUT (排気) モードの選択ができます。

「+」「-」ボタン：風力の調整ができます。

「AUTO」ボタン：
一度押すことで 78° F(25.6° C) にセットされます。
温度を下げたい時には(マイナス)のボタンを押すことでファンの回転数が増し設定温度までファンが回転し続けます。
その後、設定温度になったら停止します。
温度を上げたい場合は+ (プラス) のボタンで同様に設定できます。

外蓋開閉つまみ：
・つまみを上げるとロック
・つまみを下げるとロック解除
・時計回りで蓋を閉じる
・反時計回りで蓋を開く

注意!

つまみがロック状態で無理に回さないで下さい。
破損の原因になります。

◆ポータブルバッテリー

外部電源に接続しない時でAC100Vコンセントを使用したい時等にご利用になれます。液晶モニター、電気ケトル、ドライヤー等の電源としてご利用頂けます。



主電源/押してON、長押しでOFF

AC出力電源ボタン

※充電は背面にシガーソケットで充電できるポートがあるので走行時繋いで充電します。

注意！

外部電源に接続する時、ポータブル電源を使用しない時は、主電源をお切りください。

◆液晶モニター

ナビで映しているテレビやストリーミングビデオ等を観る事ができます。



○液晶モニターを使用する

1. 集中スイッチの「ナビ」を入れる
(エンジンかかっていない時のみ)
2. ポタ電に液晶モニターのコンセントをさす
3. ポタ電の主電源、AC出力電源を入れる
4. 液晶モニターの電源を入れる

○チャンネルや音量はナビ本体やリモコンで変えます

ナビリモコン



NAVI ↔ AV



〔回してボリューム
左右に押してチャンネル〕

○液晶モニターのみ音量を変えたい時



液晶モニター裏面にあるボタン、
+と-で音量を変えます。

■ お手入れについて

◆ 洗車

状態維持の為、日常的に洗車をお勧めします。

ネットショップ「AtoZ パーツ」ではキャンピングカーに適した洗剤類を販売しております。

ぜひこの機会にお買い求め下さい。

AtoZ のHP からリンクで飛べるようになってます。

<https://www.atozparts.jp/>



AtoZ PARTS

大好評キャンピングカー専用洗剤 カムシリーズ



◆ コーキング

FRP ボディはいくつかのパネルを組み合わせで出来ています。

コーキングとはパネルの隙間に充填するゴムパッキンのようなものです。

雨水の侵入を防いだり走行時の振動を吸収したりする役目を担ってます。

しかし長く使うと劣化がおこり、コーキングが痩せて隙間が出来たり硬化してヒビが入り始めると雨漏りの原因となります。

定期的な点検が必要ですが、AtoZ では2年ごとの車検時にコーキング処理をお勧めしています。是非お申し出下さい。



お客様自身で行う場合は「AtoZ パーツ」に弊社が使用しているコーキング剤がありますのでこれをお求め下さい。



Sikaflex-251(シーカフレックス)

■ トラブルシューティング

◎ 万一不具合等が発生した場合は、ご購入いただいた店舗までご連絡ください。

※ **中古車販売店、個人売買等でご購入のお客様は、ご購入された販売店又は修理工場を通してのみの対応とさせていただきます。**

◆ 走行時のベース車側のトラブル

走行については、ベース車の取扱説明書のトラブルシューティングをご覧ください。

その時に担当営業、最寄りの販売店に連絡を入れるようにしましょう。

点検整備などで販売店を訪問した際に、出先や日祭日、深夜のトラブルについてどのように対処したらよいか、事前に聞いておくと便利です。

◆ 事故が起きた場合

人命救助、警察や救急等の最初の連絡などを最優先に行ってください。

車両については納車時に立ち会った担当営業マン及び一番近い地区の販売店に連絡をとるようにします。

名前、連絡先、現場の位置、最寄りの警察、車両の状態、走行できるか否か、登録ナンバー、車体番号、保険会社など細かい情報をお伝えください。

また、ご加入している保険会社にも上記内容を必ず連絡するようにしましょう。

◆ 破損が軽微の場合

バック中何かにぶつけてバンパーをこすった、割れたなどの軽微な事故の場合の対処方法です。

ボディやバンパーなどはFRP製なので錆びることはありませんので、旅行から帰ってからの修理も可能です。

自損事故での保険を使う場合は、必ず現場の写真と損傷箇所の写真を撮りましょう。

日時が入る画像などがいいでしょう。

破損したかけら等は出来る限り回収（拾っておく）してください。

修正の際にそれらを利用して修正を行います。

◆ 破損が中規模の場合

バンパーなど破損した部品が車体から脱落してしまった場合、必ず割れたFRP部分は拾って持ち帰ってください。

その部分を元に復元をするため、破損部分がないと形がいびつになり、元に戻らなくなる可能性があります。

◆ 照明などの電源が全て消えた場合

これはバッテリーの完全放電が考えられます。まず、電圧を確認してください。

電圧が下がっている状態でそのままエンジンをかけたり、外部コンセントをつないで充電器を作動して充電をすると、バッテリーが発熱をしたり、破損する場合があります。

確認できるバッテリー電圧が10V以下になっていませんか。

(放電の状態によってはほとんど電圧が出ない場合もあります。)

○ 対処の方法

①ソーラーパネルのついている車両の場合は、日中であればしばらくソーラー充電しているかどうか様子を見ます。電圧が上がってくれば、そのままエンジンをかけて走り出せます。

②外部電源をつないで充電器で充電をする。

この場合、完全放電した場合は充電器が反応しない場合があります。

その場合はこの説明書の最後(11)に対処方法を記載しました。

③バッテリー電圧が完全に下がってしまった場合

この説明書の最後に記した対処方法では十分充電が出来ない場合の対応方法です。

ソーラー発電がない場合や、バッテリーの電圧が下がりすぎて、発熱等で外部充電を受け付けられない場合などは、全てのバッテリーのターミナルを外し、個々の電圧の確認をして、個々のバッテリーを予備充電させます。

・予備充電方法

12V2A程度で1個あたり約半日～1日程度充電します。

・充電器は各自ご用意ください。ホームセンターなどで売っている単純機能の安いタイプ十分です。

・高機能タイプや全自動タイプは充電器が作動しません。

・接続の際は配線の間違いやバッテリー間のショート、感電などに十分ご注意ください。

予備充電後再度バッテリーを車両に組み付けて終了です。その後エンジンをかける、外部コンセントをつなぐなどで通常充電を行います。

バッテリーを完全放電させると、寿命が短くなる場合がありますので、ある程度の電圧まで下がったら逐次充電をするようにしてください。

◆ 冷蔵庫が動かない

この場合は4点考えられます。

- ① 主電源の入れ忘れ
- ② バッテリー電圧の低下
- ③ 本体の故障
- ④ 庫内温度が低下したので動きが止まっている

まず、バッテリーの電圧を確認してください。

次に、庫内を空けて冷えているかどうかを確認してください。

冷えていればサーモスタットが働いて運転停止していると考えられます。

(庫内に調節ダイヤルがあります)

本体の故障が確認された場合は当社工場まで連絡をください。

◆ MAX ファンが動かない

この場合は通常動作と故障が分かります。

○ 通常動作の場合、

センサーで止まっている場合があります。

温度設定で動作しているなので、ある程度の温度まで来たら自動的に動き出します。

○ 故障の場合

- ・ファンが回らない
- ・サーモスタットが効かない
- ・蓋が開かない
- ・雨もれがする

○ 対処方法

- ・ファン用の主電源が入っているかどうか確認する。
- ・ファンの温度センサーの設定を確認する。
- ・蓋が開かない場合は、錆、ごみなどの固着、ギアの破損などが考えられます。状態をよく見てから、油をつける、掃除をするなどの対策をしましょう。
- ・雨漏れの場合は、コーキングの劣化、不具合、ごみが詰まっている、何らかの原因でプラスチック部分が破損しているなどが考えられます。
- ・屋根から状態を確認すると原因が判明する場合があります。
- ・これらに該当しないで動かない場合は故障の可能性もあります。
- ・一度症状を確認して、当社工場までお問い合わせください。

◆ サブバッテリーが上がった場合

サブバッテリーを使用して設備を動かしているときに、電圧が低くなってしまった場合の対処方法です。車輻に装備してある充電器やソーラーチャージコントローラーは全自動のため、バッテリー電圧が規定より低くなった場合、保護回路が働いて充電を行いません。

バッテリー電圧が10V以下になった場合、通常の充電方法では充電できない場合があります。

そのため、下記の方法でバッテリー電圧を上げる必要があります。

- ① 架装部分の全ての電源を切ります。(メインを落として、冷蔵庫、インバーター、クーラー、など全て切ります。)
- ② エンジンをかけて30分～1時間程度アイドリング状態でサブバッテリー電圧が上がるまで充電をします。電圧表示は、インバーター、ソーラーチャージャーなどの各電圧計で確認してください。アイドリングの場合、オルタネーターからそれほど大きい電流が流れないため、徐々に充電されて電圧が上がってきます。時間がたてば電圧が12V程度まで上がります。
- ③ そのままエンジンをかけておいたり、エンジンを止めて外部コンセントを挿したりしてさらに充電を行います。オプションのソーラーパネルをつけている場合は、そのまま充電が始まります。(これは自動で作動します)
- ④ サブバッテリーを十分に充電して終了です。